



アカンド ユキさん

国際学科※ 在学生

渡部 美久さん 2003年度卒業※

ユニセフ 中東北アフリカ地域事務所

## 国連職員の先輩に聞く！ どうしたら 国際協力機関で 働けますか？

アカンドユキさんは、子どものときにバングラデシュから日本に引っ越し、高校生のときから東海大学の学生サークルの皆さんに勉強を指導してもらいました。アカンドさん自身も入学と同時にサークルに入り、同様の活動を始めました。将来の夢は国連職員。「どうしたら国連に勤めることができますか？」ユニセフの中東北アフリカ地域事務所でのパートナーシップ管理やモニタリングを担当する先輩の渡部美久さんに、Zoomで相談のっていただきました。

アカンド： 渡部さんは、どうして国連の職員になると思ったのですか。

渡部： 学生のときにインドの子どもの児童労働の問題について知り衝撃を受けました。私は家で3食に困らない、学校にも行けるという生活をしている一方で、小さな子どもたちが家族を養うために毎日働かされているという現実にはショックを受けました。自分に何かできることはないか、と考えるようになり、いろいろな勉強や活動を続けるうちに、国連という手段に出会いました。

アカンド： 私は、子どものときに祖国のバングラデシュで貧困や差別を目の当たりにして、そういう人々を助けるために国連の職員になりたいと思うようになりました。その夢をかなえるためには、大学生のときに何を学んでおくべきですか。

渡部： 興味のあることに積極的に参加することです。国連もいろいろなセミナーやイベントを開催していて、大学生が参加できるものがたくさんあります。そういった集まりに参加して、友達を作って、意見交換をして、理解を深めるということが重要だと思います。

アカンド： 国連に入るためには大学院に行く必要があると思いますが、何を専攻したらいいでしょうか。

渡部： 自分が興味があって、情熱を感じるもの！私がお金をやりなさい、っていうよりも、本当に解決したい課題や問題を見つけることが一番大切です。そうじゃないと長続きしないし、国連はいろんな分野の専門家が集まる場所なので、この分野なら世界一になれると思えることを見つけることが重要です。

アカンド： 外国語はどうやって勉強したらいいですか。

渡部： アウトプットの練習をたくさんしたらいいと思います。

アカンド： アウトプット？

渡部： 読んだり聞いたりして、自分の中に入れていくのがインプット。話したり書いたりして外に出していくことがアウトプットです。シャドーイングと言って、聞いたことをどンドン真似して話したり、たくさん書くこと。私は英語で日記を書いたりもしていました。アウトプットしようと思ったら、たくさんインプットしないといけないから、英語で新聞や本を読んだり、ラジオを聞いたり、言いたいことが言えるようにたくさん勉強することにもなります。

アカンド： 私は女性の地位を向上させる仕事がしたいのですが、国連だったらこの機関がいいですか？

渡部： 最初から国連を目指すというよりも、どんな課題をどんな方法で解決したらいいか、を考える方がいいと思います。女性の問題を解決するためには、女性にだけ働きかけるのは不十分で、意思決定者である男性の意識改革も必要です。そして、そこにアプローチしているのは誰なのか、と考えるんです。現地では、国連だけでなく、NGOや日本の国際協力機関や企業、多くの組織が多様な活動をしています。また、国連といっても、法律や政策の策定をする組織、コミュニティレベルの活動をする組織、性や生殖の健康や権利から取り組む機関、女性や子どもの権利を守ることに取り組む機関、労働者としての女性を支える機関、とさまざまなことがあります。問題解決の方法は一つではないので、この問題をどのように解決したいか、自分は何ができるのか、という視点から考えるといいと思います。

※本学部の前身「教養学部 国際学科」